



文化財保存修復国際会議

「最新の考古科学事情」

奈良文化財研究所では、1998年度より「中核的研究拠点形成プログラム（COE）」（文部科学省）の交付を受け、「考古科学の総合的研究」に取り組んでいます。これまで、毎年、国際会議を開催してきましたが、本年度は保存科学をテーマにした国際会議を2月14日から2月16日まで開催しました。

初日と2日目には奈良県文化会館小ホールにて専門家会議が、3日目には奈良県新公会堂能楽堂にて一般講演会がおこなわれ、専門家会議には国内外の文化財保存修復に携わる専門家延べ216名、一般講演会には約550名の参加がありました。特に一般講演会は、当初予想したよりも多くの市民の方の参加があり、ロビーにてテレビモニターによる中継をおこなうという盛況ぶりでした。

専門家会議では、スミソニアン研究機構フリアギャラリーの元保存科学部長トーマス・チェイス氏の基調講演に続き、スウェーデン、韓国、中国、日本から参加した専門家から文化財保存修復に関する研究報告8件、ポスター発表8件がおこなわれました。講演内容は各研究発表では、文化財の保存修復に関する現状の再確認と種々の問題点に関する意見の交換、最新の保存技術や分析技術に関する質疑などが活発に展開されました。

一般講演会では、奈良文化財研究所保存修復科学研究室長肥塚隆保による「日本出土ガラスから探る古代の交易」、ハンガリー国立博物館保存科学部長アンドラス・モルゴス氏による「木製文化財の保存と展望」、宮内庁正倉院事務所保存科学室長成瀬正和氏による「シルクロードの終着駅—正倉院宝物を

科学する—」、西オーストラリア海洋博物館保存管理部長イアン・マクレオド氏による「難破船に残る金属製遺物の科学」、奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長沢田正昭による「最近発見された古代壁画の分析と保存」の5題の講演がおこなわれました。広範な話題にもかかわらず一般市民の皆さんにもわかりやすく、かつ内容は豊富で、多くの皆様に最新の考古科学の事情について理解を深めていただけたものと思います。

文化財の保存修復にはさまざまな問題点がありますが、これらの問題点を克服していく上で、考古科学への期待が非常に大きいことが、今回の国際会議を通してあらためて感じられました。

（埋蔵文化財センター）

